

# 北海之光

3月号 北海道教区報

主はわたしたちに道を示される  
わたしたちはその道を歩もう

イザヤ書2章3節

発行所 北海の光社  
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp

http://www.nssk-hokkaido.jp

発行人 笹森田鶴

## 十字架上の七聖語の黙想

— 単純・素朴・個人的な黙想 —

網走聖ペテロ教会牧師、北見聖ヤコブ教会牧師、  
紋別聖マリヤ教会管理牧師

司祭 フランシスコ 飯野 正行

最後の言葉。それは大切な

ものであるに違いない。最も

小さき者の一人を見つめられ

られた最後の七つの言葉、私

たちを照らす光、言葉を超え

る言葉を黙想したい。

第一聖語「父よ、彼らをお赦

してください。自分が何をし

ているのか知らないのです」

(ルカ二三章三四節)

ご自身に酷い仕打ちをする

者たちのために主は赦しを祈

られた。この時、主は私の顔

も見つめ、私の名も呼ばれた

のか。私たちの暗闇の中に響

く第一声を、しっかりと聴き

とめたい。「父よ、彼らをお

赦してください。自分が何をし

ているのか知らないのです」

第二聖語「はつきり言ってお

くが、あなたは今日わたしと

一緒に楽園にいる」

(ルカ二三章四三節)

絶望の中で憐れみを求める。

主が彼を見つめる。彼はふと

目を起こすと自分がイエスと

共に楽園にいる。最も慈しみ

深い支配。私も彼のようにこ

う折ることが出来るだろうか。

「イエスよ、あなたの御国にお

いになるときには、わたし

を思い出してください」

第三聖語「婦人よ、御覧なさ

い。あなたの子です」「見な

さい、あなたの母です」

(ヨハネ一九章二六―二七節)

家庭は癒しの場。理解し合

い、励まし合い、共に喜び、

共に泣く。これは里親の日常。

教会は神の家族。癒しの共同

体。ほっとする場でないなら、

どこかが間違っている。第三

聖語を覚えよ。「婦人よ、御

覧なさい。あなたの子です」

「見なさい、あなたの母です」

第四聖語「エロイ、エロイ、

レマ、サバクタニ(わが神、

わが神、なぜわたしをお見捨

てになったのですか)」

(マルコ一五章三四節)

神を「アツバ」(お父ちゃ

ん)と呼んでいたイエスが今

は「神」と呼ぶ。審判される

側の叫び。見捨てられる罪人。

これは私の叫びではないの

か。何が起こっているのか。「わ

が神、わが神、なぜわたしを

お見捨てになったのですか」

第五聖語「渇く」

(ヨハネ一九章二八節)

詩編の朗読か。預言の成就

か。大量出血による渇きか。

「渇いている者はわたしのも

とで飲め」と言われたお方が

今は「渇く」と言われる。何

をもってして渇きを潤させて

いただけれるか。もし単純素朴

な問いかけが許されるとする

なら、あなたは十字架上のイ

エスが、何に渇いていると思

うか。「わたしは」渇く」

第六聖語「成し遂げられた」

(ヨハネ一九章三〇節)

この「テレスタイ」の原

意は「終わった」。商業用語

で、債務の支払いが完了する

こと。つまり「完済した」で

ある。何を完済したのか。私

たちの罪ゆえの支払い以外に

は考えられない。ということ

は、この言葉は第四聖語に直

結していると言えるだろう。

天地が身を屈めるべき言葉で

ある。「成し遂げられた」

第七聖語「父よ、わたしの霊

を御手にゆだねます」

(ルカ二三章四六節)

「息を引き取る」は原語で

「霊を引き渡す」とも読める。

死の瞬間、イエスは御父にす

べてを明け渡す。神にゆだね

る生き方そのもの。十字架を

通して私たちは神の「最も慈

しみ深い支配」に身をゆだね

て生きるよう招かれているの

ではないか。「父よ、わたし

の霊を御手にゆだねます」

こうして主は息を引き取ら

れ、ご遺体はアリマタヤのヨ

セフにより墓に葬られる。墓

は暗闇と深い静寂に包まれ

る。天地は過ぎ去ったのか。

すべては終わったのか。

いや、すでに新しい物語は

始まっている。「一巻の終わ

り」は「二巻の始まり」であり、

墓の入口に置かれた大きな石

は間もなく蹴飛ばされる。

ここからすべては始まる。



# 福音と私(二六七)

—心の窓をひらく—  
—今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか—

札幌キリスト教会信徒

クリストフ 鈴木 幸夫



## 「好きな聖歌」

神の国と神の義を

まずもとめなさい

すべてのものはあたえられる

ハレル ハレルヤ

(古今聖歌集増補版九五 一〇番)

私は静岡県の遠州、茶畑とみかん畑と田んぼに囲まれた菊川という田舎町で生まれ育ちました。幼い頃は畔道を歩くとウズラが飛び出し、茶畑ではノウサギが駆け回っていました。オート三輪や軽トラが土埃を立てて走り、夏はカエルの合唱で騒がしい夜が続く長閑な場所でした。

小学二年頃から道路が舗装されて狭い歩道の隅に虫の亡骸が吹き溜まり、川は三面コンクリートに覆われてトノサマガエルが減り、ウズラの姿

が消えました。

鍵っ子の私は、家に帰ると

百科事典を開いては古代ギリ

シアやローマの遺跡や神話世

界の絵画、キリスト教美術の

図像などを飽きることなく眺

めていました。その影響から

か「この世には人間にはない

絶対的な力を持った存在があ

る」という漠然とした意識が

心の奥で芽生えました。新

時あたかも高度成長期。新

幹線や東名高速が田んぼや茶

畑を切り裂き、山は崩され工

業団地に、洗濯機に脱水槽が

付き、テレビはカラーに、ト

イレは水洗に…豊かさが押し

寄せてきた一方、公害や自然

破壊が顕在化してきた時代で

もありました。

そんな中途半端な田舎で、

大正期の文学青年に憧れる少

年が、実際のキリスト教や教

会に出会う機会はなく、わず

かに高校一年の時、カトリッ

クの友人から日曜の教会に誘

われた程度。でも、中に入る

ことを躊躇し礼拝終了まで門

で待つていた、その程度です。

すべては専ら文学や人文学書

の中で、でした。

その状態は上京した大学時

代も変わらず、書籍から美術

館や博物館に少しはみ出た程

度。一方、高校時代に出会っ

た伝教大師最澄の生涯や思想

には、強く惹かれ続けていま

した。

少し様子が変わったのは、

日本近代詩史研究のため、明

治初期の讚美歌や作品・作者

に触れたことです。そこから

近代日本人のキリスト教受容

について、思いを巡らせるこ

とが多くなりました。文学や

芸術の面からキリスト教への

思索や探究心を深めたこと

で、幼い頃に芽生えた「絶対

的な存在」に対する意識とキ

リスト教が結び付いたので

しょう。

教会との接点は、妻かほる

や息子照洋を通して、漸くも

たらされました。その経緯は、

かほるさんが二〇一九年二月

号のこの欄で記述しています

が、何より大きな出会いは東

京の聖アンデレ教会で始まっ

た「こどもと祝うユーカリス

ト」でした。

竹内謙太郎司祭が伊藤高章

執事と作り、竹田眞主教の認

可を得て始まったこの革新的

な礼拝は、三好忠彦さん、佐

藤陸さん、猿渡愛雄さん、倉

辻明男さん、片岡大造さん、

杉山晴比古さんらBSAの皆

さんが中心となって「こども

が来なくても支え続ける」と

いう熱烈な支援によって順調

に育ち、現在でも同教会の重

要な礼拝として多くの信徒を

生み続けています。

竹内先生は「原始キリスト

教会の礼拝の姿にできるだけ

近づきたい」と「ユーカリス

ト」を企図し、式文が完成し

た時には「遂に出来た！」と

心から喜びで満たされたと話

されました。この礼拝を通じ

て、キリスト教とは、教会と

は、キリスト者とは、礼拝と

は…など多くを学びました。

そしてたくさん仲間や尊敬

すべき先達を得て、洗礼の恵

みに与る道が開かれたので

す。

竹内先生は「楽しくなければ

教会じゃない」と言い続

け、交わりと「同じ釜の飯を

食う」ことの大切さを常に強

調し、礼拝や愛餐会では名札

を付け、名前を呼んで語り掛

けることを勧めました。そし

て「みなさんは既に天国に片

足を突っ込んでいる」と求道

者を励まし続けてくださいま

した。

冒頭の聖歌は「ユーカリス

ト」でパンとブドウジュース

の分かち合い時に歌います。

一緒に食事をすることの時、信

仰の原点が凝縮されたクライ

マックスを迎えるのです。主

に感謝！



常置委員会報告

第四回 二月一四日

協議事項

一、新型コロナウイルスへの今後の対応指針を、主教名でお知らせすることとした。  
二、教区諸役員選任に関して



主教室から

東京聖三一教会の管理牧師を二年間務めておりました時、大斎節中の大事なミツシオンがあると告げられました。それは教会の敷地内にある棕櫚の木の葉を箱詰めにして北海道教区に送るといふミツシオンでした。寒冷地の北海道では棕櫚が育たないために、復活前主日の棕櫚の日曜日に用いる棕櫚が手に入らないから毎年お送りしている、というのです。なるほど子ども頃に育った東北教区でも、棕櫚ではなくソテツで十字架を作って礼拝に用いていた記憶があります。牧師であった父は鉢植えの棕櫚を大事に家の中で育てて

協議した。

三、今年度の教区礼拝を五月二〇日に実施することとした。  
四、バチラー保育園改築に関し、教区資金より一千万円を融資することとした。  
五、(旧) 双葉幼稚園園舎の管理責任者に、特定非営利法人

いきましたが、ほんの小さな木でしたので到底礼拝に用いるだけの葉の数にもなりません。けれども東京の暖かさの中で、棕櫚はむしろ強健でどんな条件の土地でも次々と芽を出し、まっすぐに何メートルもの高さとなり、大きな葉を生い茂らせます。その高木にはしごを使ってよじ登り、葉を落として水洗いし、新鮮なまま到着するようにと箱に詰めて送ります。北海道ほどではありませんが、大斎節はまだまだ寒い時期の外での作業です。なんと手間をかけてもらって大事に遠方に送られていく棕櫚の葉だろうと思いました。そしてその棕櫚を喜んでくださる方々のために、毎年一生懸命棕櫚と格闘してくださる信徒

「双葉の露」を選任することとした。

六、福岡フェローシップ(説教セミナー)への聖職派遣に際して、教区から補助することとした。  
七、「国際シンポジウム〜海と森と川に生きる先住民の集い

の方々を誇りに思ったものでした。  
今年からは受け取る側です。心して、有り難く頂戴し、北海道の各地の教会で用いさせていただきます。棕櫚の葉を通して与えられている祈りの交わりに感謝します。  
灰の十字架のしるしをいただく大斎始日から始まり、一層復活日に備えて心を傾ける聖週にわたしたちは突入しようとしています。闇と冷たさに包まれた長い長い冬を終えようとしているこの季節、キリストのご受難とご復活の神秘を、聖週ごとに聖なる三日間の礼拝でひとつひとつなぞってまいります。そしてよいよ春の暖かさに包まれるかのような喜びのご復活日を迎えるのです。

義 マリア・グレス 笹森 田鶴

\* \* \*

」に、教区宣教活動推進部名で協賛することとした。  
八、小西美智代さんより寄せられた遺贈献金の案分について協議した。  
九、日本聖公会宣教協議会への出席者八名を選任した。

堅信式受領 おめでとう

有珠聖公会

ヨセフ 新井 諒 (二月二六日)

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

四月二日(水)

午前一〇時三〇分 於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。  
司祭 ジョン・バチラー 一九四四年四月二日  
司祭 宇田 梅太郎 一九五一年四月三日

主教	上田 一良	一九七二年四月五日
主教	天城 英明	二〇一〇年四月五日
伝道師	ルイザンデレスバチラー	一九三六年四月六日
司祭	荒砥 琢哉	一九三一年四月二三日
伝道師	田中 末吉	一九七八年四月二四日
伝道師	芥川 清五郎	一九二七年四月二五日
司祭	木村 信一	一九七八年四月二五日
司祭	小貫 安貞	一九七一年四月二六日
伝道師	白田 うめ	一九五八年四月二八日
伝道師	マイ・シエーン・オックスラド	一九二二年四月二〇日
伝道師	辺 泥 五郎	一九五四年四月二三日
司祭	山田 安間	一九二四年四月二四日
司祭	小貫 嗣夫	一九八一年四月二五日
伝道師	江賀 寅三	一九六八年四月二八日
伝道師	バチラー 八重子	一九六二年四月二九日
司祭	篠塚 長治郎	一九五〇年四月三〇日



# 宣教一五〇年実行委員会だより

司祭 サムエル 吉野 暁生

みなさんこんにちは。宣教一五〇年実行委員会です。

北海道教区は二〇二四年に宣教一五〇年を迎えます。

二〇二二年一月の教区会の決議によって、準備委員会が「実行委員会」に変わり、本格的に宣教一五〇年記念事業のために動き出しました。

テーマは「歩み続けよ、福音の道を」ということで、この一五〇年を振り返りつつ、祝

いていきたいと考えています。いよいよあと一年に迫ってきましたので、実行委員会は

今、こんなことを計画していますよ、というお知らせを定期的にしていきたいと思っております。

一番気になる「記念礼拝」の日程ですが、二〇二四年七月一日(月)午前一〇時半を予定しています。道内各地の教会からも集まりやすいように土曜日や主日ではなく、祝日の月曜日とさせていただきます。

きました。説教者や奉仕者など、決まり次第お伝えしていきますが、日程は確定です。で、今からご予定ください。なお、そのため二〇二四年の教区礼拝は行わない予定です。

加えてその記念礼拝で「北海道教区一五〇年記念聖歌」を歌うことを計画しています。次ページに歌詞公募のお知らせがありますので、ぜひ応募してみてください。聖歌ができれば、聖歌の練習や「みんな歌おう」の企画なども考えていますので、こちらもぜひご参加ください。

さらに一五〇年にはいくつかの出版物を発行する予定です。一つは先日二五〇回を突破した、北海の光に連載されている「福音と私」の書籍化です。こちらにも下にお願

いがありますので、ご協力をお願いいたします。もう一つは「一五〇年記念誌」です。こちらは、教区内各教会・伝道

所・施設などの紹介をする冊子です。各教会に設立からの流れや、写真などで、道内各地の一五〇年を振り返って

きたいと思っています。近々各教会・施設に原稿依頼をします。ご協力をお願いいたします。

この記念事業のための献金も予定されています。二〇二三年の教区礼拝でみなさまにお願いをさせていただきます。

このほか、シンポジウムや、パネル展の実行、歴史編纂事業の開始、教会巡礼や黙想会など、以前皆さんから寄せて

いただいたアイデアを基に計画を進めています。これから随時企画を発表していきますので、楽しみにお待ちください。

宣教一五〇年記念事業を進めるには、みなさん一人一人のお力が必要です。多くの方に声をおかけすることになると思います。もしかしたらこれを手に取っているあなたにも予期せず声がかかるかもしれせん。たくさんの事業を行うのに、少しずつ手をお

貸しくだされれば幸いです。北海道教区のこれからの歩みの上に主の恵みが豊かにありますように。

「一五〇年記念誌」「福音と私」の発行について  
札幌キリスト教会  
クリストフ 鈴木幸夫

「北海之光」に一九九八年三月から掲載されているコラム「福音と私」を、北海道教区一五〇年記念事業の一環として、小冊子として発行することになりました。

「福音と私」は、信徒の皆さんがその信仰の歩みを記した証あかしの書であり、四半世紀以上

にわたり読む者を励ましてきました。また聖公会の歴史の断面を記した、貴重な証言集でもあります。

現在、そのテキストを抽出し、体裁を新たに編集し直したうえで、A5判の小冊子として分冊形式で順次発行していくための準備作業を進めています。

原文を尊重し、誤字や引用の誤り等が見つかった場合に

外は、原則としてそのままの文章で掲載させていただきます。写真等の扱いは未定ですが、データがデジタルで残されていない二〇一四年以前(一六九号)のものは、文中の写真の再掲載はできない可能性が高く、悪しからずあらかじめご了承ください。

この発行に際し、ご自身の書かれた文章の掲載に不都合のある方は、本年四月末までに、編集担当者である鈴木、或いは所属教会の牧師までご連絡をくださいますようお願い申し上げます。

なお、掲載された文章の修正、加筆等のお申し入れは、ご遠慮いただきますようお願い申し上げます。

この編集作業―テキストの抽出や確認など―にご協力いただける方を募集しています。所属教会の牧師や一五〇年実行委員会の委員を通じてお申し出いただけると大変助かります。よろしくお願

いいたします。



# 北海道教区宣教 150 年記念聖歌 歌詞募集



## 北海道教区の聖歌を作ろう！

北海道教区は 2024 年に宣教 150 年を迎えます！

これを機に北海道教区の聖歌をご一緒に作りませんか？

神さまがともにいてくださって、これからもともに歩んでいきたい  
こんな気持ちになることができる聖歌を作りたいと考えています。

次の要領で歌詞を募りますので、みなさんの思いをぜひお寄せください！

**募集内容：**北海道教区宣教 150 年記念聖歌の歌詞

短いことば、キーワード、1 行メッセージなど  
歌詞全体の場合は 3 節まで

…聖書のみ言葉、…神がともにいてくださる、

…ともに歩いていく といったイメージ

(歌詞やことばを選んだ理由もあればお書き添えください)

※完成した歌詞の著作権者は北海道教区となります

**募集期間：**2023年2月～6月末

**応募先：**日本聖公会北海道教区 150 年記念聖歌係

郵便 001-0015 札幌市北区北 15 条西 5 丁目 1-12

FAX 011-736-8377

メール office@nssk-hokkaido.jp

問い合わせ：上記応募先まで。折り返し担当より連絡を差し上げます。

各教会、施設、信徒、グループなどたくさんの方々からのご応募をお待ちしています。  
よせられた歌詞を元に 150 年記念聖歌の歌詞を作成し、秋には作曲家に作曲を依頼して  
2023 年末に完成することを目標としています。なお、応募された歌詞がそのまま採用と  
ならない場合もあることをどうぞご了承ください。2024 年 1 月には皆さんに聖歌を紹  
介し、各教会で口ずさんで味わっていただき、初夏に行われる予定の教区宣教 150  
年記念礼拝で、皆さんで歌い、おさげしたいと思います。

## 2023年度 教区役員一覧表

日本聖公会 北海道教区  
2023年1月1日現在

委員(部)会名	選出者	長	委員・部員名
常置委員会	教区会	司祭 大町信也	司祭 下澤 昌、司祭 永谷 亮 大友 宣、小澤暢子、矢部幸子
教区審判委員	教区会	教区主教	司祭 松井新世、司祭 木村夕子、沖田京子、 松下孝広
会計監査委員	教区会	古川義則	上村裕子
教区ハラスメント 防止委員会	常置委員会	司祭 木村夕子	志賀直信、糸田正博、山本雅之
管財委員会	常置委員会	橋本知樹	
建築融資金委員会	常置委員会	鈴木 康	教区事務所主事、財政部長
I T 委員会	常置委員会	司祭 永谷 亮	司祭 吉野暁生、横山光紀
北海道 M T S	常置委員会	司祭 吉野暁生	司祭 大町信也、司祭 松井新世 柴山富美子、糸田正博
礼拝委員会	常置委員会	司祭 松井新世	丸山悦子、鈴木かほる
教区事務所	常置委員会	主事 司祭 永谷 亮	副主事 出町勇人、書記 高橋 愛
宣教活動推進部	常置委員会	司祭 吉野暁生	司祭 飯野正行、司祭 池田 亨、司祭 大町 信也、司祭 木村夕子、司祭 永谷 亮、司祭 松井新世、司祭 上平 更 佐藤忠志、福富牧子、宮本道子、土橋芳美、 城石梨奈、丸山悦子、矢部幸子、山本修嗣、 山崎典美、高橋 愛
財政部	常置委員会	橋本知樹	鈴木幸夫、松下孝広、横山光紀
神学生養成委員会	常置委員会	福富牧子	未定
歴史文書保管委員会	常置委員会	下田尊久	司祭 池田 亨、執事 三浦千晴、山本修嗣、 佐藤さつき、夏堀恭子
北海の光編集委員会	常置委員会	司祭 池田 亨	執事 三浦千晴、丹 政清、佐藤さつき、 山崎恒子、吉谷かおる
教区礼拝実行委員会	常置委員会	横山光紀	
教区宣教150 年実行委員会	常置委員会	司祭 吉野暁生	丸山悦子、大友 宣、高橋 愛、鈴木幸夫、 現任教役者、教区事務所主事
分区長 道 央	教区主教	司祭 大町信也	司祭 池田 亨 (4月17日より)
分区長 道 南	教区主教	司祭 松井新世	
分区長 道 東	教区主教	司祭 飯野正行	
分区長 道 北	教区主教	司祭 永谷 亮	司祭 下澤 昌 (4月17日より)
聖職養成委員	教区主教	司祭 大町信也	司祭 下澤 昌
聖職試験委員	教区主教	司祭 下澤 昌	司祭 池田 亨、司祭 大町信也
教役者子弟育英資金	教区主教	教区主教	財政部長、教区事務所主事、三溝千春
主教座聖堂		教区主教	常置委員、札幌キリスト教会牧師、 同教会委員会

〈敬称略〉

委員(部)会名		選出者	長	委員・部員名
	チャプレン教区婦人会	教区主教	司祭 池田 亨	
	〃 財政部		司祭 永谷 亮	
	〃 青少年		司祭 永谷 亮	
	〃 G F S		司祭 木村夕子	
東日本宣教協働区 協働委員会	常置委員会		主教 笹森田鶴、司祭 大町信也、大友 宣	
東北教区・北海道 教区宣教協働 タスクフォース (チーム北国)	常置委員会		司祭 大町信也、大友 宣、吉谷かおる	
管区関係	日本聖公会代議員	教区会		司祭 大町信也、司祭 木村夕子 大友 宣、山崎典美
	日本聖公会常議員	管区総会		主教 笹森田鶴
	祈祷書改正委員会	常議員会		主教 笹森田鶴、司祭 永谷 亮
	礼拝委員会			主教 笹森田鶴
	正義と平和 和委員会			原発問題プロジェクト 尾関敏明 ジェンダープロジェクト 司祭 永谷 亮
	神学教理委員会			吉谷かおる
	女性デスク	主教会		吉谷かおる
	管区審判廷	管区総会		司祭 下澤 昌
	聖公会保育連盟	教区主教		渡部良子
管区諸委員会教区連絡担当	青年委員会	常置委員会	司祭 上平 更	
	正義と平和委員会		司祭 木村夕子	
	人権問題担当者		チェキム シガン 曹金 時江	
教区関係団体	NPO法人ファミリー サポート聖十字ひろば		理事長 大友正幸	
	社会福祉法人 聖公会北海道福祉会		理事長 笹森田鶴	理事 大友正幸、下澤 昌、吉谷かおる、 矢部幸子、高橋久美子 監事 高田鎮通、小貫晃一
	学校法人 聖公会北海道 学園		理事長 笹森田鶴	理事 渡部良子、鈴木典明、菊地和子、 大友正幸、遠藤淳治、広谷和文 監事 能登 晟、山崎典美
教区協力団体	教区婦人会		会長 神林直子	
	教区 G F S		支部長 小澤暢子	
	マルタ会		主事 司祭 永谷 亮	高橋 愛
他協力団体	ホレンコ幹事		司祭 池田 亨、横山由紀子	
	北海道外キ連		司祭 大町信也	
	刑務所教誨師 (カッコ内は 所属刑務所)		司祭 藤井八郎(函館)、司祭 飯野正行(網走)、司祭 松井新世(月形)、司祭 吉野暁生(釧路)、司祭 永谷 亮(月形)	



## 教会だより March



### ▽旭川聖マルコ教会

厳しい寒さの中、世界は理不尽な死で満ち満ちています。戦争が早く終わり、被災した人達が癒されることを一番北の教会からお祈りします。永谷司祭は二月七日、一三日台湾で「東アジア礼拝協議会」に出席。その間「み言葉の礼拝」が捧げられました。二月の教会委員会では様々な意見がある中、月一回の予定で、マルコ食堂の再開が決まりました。感染に注意し、また一緒に食事することを皆、楽しみにしています。大斎節に入り、やっと交わりが深くなってきた永谷司祭とのお別れが近づき寂しい限り

です。良き新しい出会いがありますように。

### ▽岩見沢聖十字教会

春と冬の攻防を繰り返して二月の岩見沢です。一九日の主日、HBCテレビ・キリスト教番組ライフラインで教会案内のテロップが流れました。宣教の一助となりますように。この日は、池田亨司祭司式による聖餐式。その後に堅信受領者総会が行われ全ての議案が承認されました。

年長・年中の園児は、近くの大きな公園で歩くスキーに挑戦。藤井八郎司祭が数十年前に園長の時に始めたスキー保育。体幹が養われます。聖十字の伝統としてこれからも受け継がれる事でしょう。

### ▽釧路聖ハウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会  
(伝道所)

二月二日、顕現後第六主日。早朝からの雪でしーんと音が響く礼拝堂に、柔らかな声が響きました。雪にもめげず札幌からご到着になったマリア・グレイス笹森田鶴主教の声です。

「釧路の皆様こんにちは。

お久しぶりです」。半年ぶりの主教巡回。「今回は列車で参りました。雪が心配でしたが無事到着いたしました。皆様お元気そうで何よりです」。

主教巡回に何とか出席したいと集まった信徒はいつもより多い二人。主教による説教と陪餐に感激した様子。礼拝後、前回はなかった主教を囲んでの教会委員との交流会も、行うことができました。

翌週一九日、大斎節前主日は、吉野司祭が帯広聖公会の信徒総会で帯広行きのため、久しぶりに「み言葉の礼拝」。前田博美委員が司式者を務め、吉野司祭の説教の代わりに奨励が読まれ、これはこれで、新鮮でした。

大斎節初日の聖餐式では「灰の十字架」のお祈りが。棕櫚の灰が額に刻まれるのは毎年、生まれ変わるようとの信徒達の声も…。主に感謝。

### ▽帯広聖公会

いまだ寒さが厳しい帯広ですが、日中の日差しに温かさを感じるようになって来ました。

一月三〇日、アグネス長谷

部芳子さんが逝去。心から魂の平安をお祈りいたします。

一九日、釧路から管理司祭吉野先生にご陪席頂き二年ぶりに堅信受領者総会が対面で行われ、全ての議案が承認されました。

二二日灰の水曜日、信徒六名で礼拝を行い額に十字のしるしを受けました。体調が悪い中、牧会を守ってくださいた阿部先生の退職が決まりました。寂しくなりますが、これからの先生の歩みに神様の豊かなお守りがありますように。

### ▽稚内聖公会

二二日(火) 午前一〇時三〇分から聖餐式を行いました。本原満栄さんに加えて岡本直子さんが出席されて、木村司祭と合計三名で礼拝をおささげできました。東京から移住された岡本さんは笹森主教様との接点もあり、聖公会の信徒としての交わりが道北地域において新たに始まった事をとて嬉しく思います。

親しく話してくださいる本原さんとの会話も弾み「教会ってやっぱり良いですね」としみじみとした感想をいただいた、三人とも善い礼拝共同体のお恵みに与った一日でした。

### ▽苫小牧聖ルカ教会

昨年から礼拝の奏楽は、小貫多喜子姉に加え、オルガンを始めたばかりの高橋美倫姉とオカリナ担当の安宅久美子姉の優しく温かい音楽が流れています。教会外の掲示板は中井隆子姉の季節のイラストで彩られ、春の風が感じられる雰囲気になっています。また、教会のフェイスブックも始めました。まだまだ未熟ですが、教会の様子が多くの人に伝わればありがたいと思っています。

聖ルカ幼稚園では二八日にこども聖歌隊スマイルファイナルコンサートが行われました。保護者一名の制限でしたが、子ども達は笑顔で堂々と歌っていました。年長ばんだ組二五名の卒園式は三月一八日に行われます。

### ▽函館聖ヨハネ教会

五日、オーガニスト・狩野昌子姉が長年にわたる奏楽奉仕を終えご主人の転勤先へ。



礼拝後、新任の黒田百合子・結以母娘を交えてオーガニスト会を開催、昼食を共にする。

療養中の藤井司祭は体調良好

好で一二日、一九日の主日、二二日の大斎始日(灰の水曜日)の礼拝を司式される。

二六日、上平更司祭出席のもと教会委員会開催。信徒名簿や各種発送リストの一元

化、大斎中の行事運営、五月二一日開催予定の「聖堂コンサート」東京バツハ合唱団の受け入れ、七月に大沼で開催の聖公会保育者連盟全国大会への協力対応等について話し合われた。

▽札幌キリスト教会

二月五日、子どもの教会。ノアの箱舟物語を学ぶ。礼拝後に、ノアの箱舟にちなんだバランスゲームを楽しむ。同日、GFSでは抹茶を楽しむ。トルコ・シリア大地震の救援

募金始まる。膨大な死者数に

心が痛む。二二日、道央分区合同の大斎始日礼拝。司式を笹森田鶴主教、説教を阿部芳克司祭が担われ、額に灰の十字を頂く。帯広聖公会より小松俊子さん転入籍、歓迎致し

ます。二七日、リベカ宮原しのおぶさん、ご逝去。天のみ国での平安を祈る。

▽札幌聖ミカエル教会

二月はあつという間に通りに過ぎていきました。被献日は本来、道央分区で婦人会の合同礼拝のはずですが、今年も各教会でお祈りを捧げまし

た。グレースの会では、タン

ザニアの雨宮春子さんから中継の画面越しに近況を聞きました。四月の帰国後はまた異なる形で支援が継続されることを模索しています。幼稚園の旧園舎である「ひろば」の宣教的使用を考えるひろば委員会が発足、子ども、またお年寄りに用いられる場となることを目指して進んでいきます。この冬は少しずつ降った雪を園庭に集め、子どもたちにはちようど良い高さの雪山になりました。

▽新札幌聖ニコラス教会

コロナ禍の間中止していた聖書を読む会が再開された。昼食を共にし、ヨハネ福音書を読みそれぞれの心に響いた言葉を分かち合う。二月二四日はロシアがウクライナに侵

入してちようど一年の日、毎

週金曜日の平和のための夕の祈りにも参加者が増え、共に一日も早い平和への道を祈る。新たな洗礼堅信志願者一名を得て、復活日に洗礼式を予定。

▽聖マーガレット教会

二月五日、数年来、木村淳さん一人での信徒奉事者に小貫愛子さんが認可され、これからのお二人でのご奉仕に感謝。同日、堅信受領者総会、全ての報告と議案が承認され、特に貸借契約中のプレハブ横の土地約一三坪の購入についても承認され、駐車場出入の容易さと土地利用の用途について大きく前進しました。

また、同日、ある方から

献金が寄せられその中に「二九六五年頃お世話になりました。今迄何かと心の支えにもしてまいりました。教会が立派になり雰囲気も変わらず、懐かしさで胸が熱くなりました」(中略)とありました。福音に出会い、当時を懐かしんでおられる姿を想い浮かべ、そこに神様のみ摂理を

感じずにはいられませんでした。

▽平取聖公会

二月最終週は大斎節第一主日・灰の礼拝でした。礼拝の中で額に灰の十字架をいただきました。

パチラー保育園の新園舎の

工事は順調に進んでいます。外枠の足場もなくなり内装が進んでいます。教会では新築のお祝いに玄関ガラスドアに、アイヌ文様のステンシルと来客用の椅子を贈ります。一月に逝去された札幌聖ミカエル教会信徒のルシア谷本靖子さんは、内海牧師も記者井澤も神愛園の同僚として二〇〇二年から一緒に働きました。先日下澤牧師からお亡くなりになったご様子をお聴きし、二人でお祈りを捧げました。

魂の平安をお祈りします。

▽紋別聖マリヤ教会  
二月に入り、遅れていた流水が接岸して白一色の美しい景色が広がっています。五日、越山司祭司式による聖餐式が行われました。固定化されていた各聖書朗読担当者を月替

わりにし、二月は旧約聖書(内

竹兄)・詩編(エリックソン久美子姉)・使徒書(吉山姉)が奉仕されます。幼稚園では一五日、雪中運動会が行われました。お昼ご飯は豚汁が用意され、園児たちの喜びの声が溢れています。

だんだんと暖かくなってきました。お体にご自愛ください。

▽有珠聖公会

二月二六日、大斎節第一主日の聖餐式を、笹森主教様の巡回のもと捧げる。同礼拝において新井諒さんの洗礼・堅信式が行われました。札幌よりご親族も出席され、喜びを分かち合いました。また、新井諒さんのお連れ合いの友子さん、札幌キリスト教会より転入籍、歓迎します。六月から八月にかけてウポポイ(民族共生象徴空間)において実施予定の特別展に向けて、礼拝の様子など取材を受けました。

▽留萌キリスト教会

猛吹雪のため延期した堅信受領者総会は五日に無事開催

受領者総会は五日に無事開催

され、名寄の藤井さん夫妻とはスマホの画面電話を用いて行う事が出来ました。今年度の活動計画を確認して、教会の活動が始まりました。

この冬は風向きが悪く、集会室のストーブが不完全燃焼を起こしました。設置から二〇年以上経過し、入れ替えることになりました。また、ガス湯沸かし器も同様に故障。タイミングよく、池田さん宅から新品同様のおさがりを頂戴したので、活用することになりました。感謝いたします。

▽網走聖ペテロ教会

例年になく雪も少ない日々、一二月は信徒総会が開催、予算、決算報告と年間行事の確認が行われた。月に一度の勉強会や聖歌を歌い奉仕をするペテロの会も、参加者は少ないが、主に守られ、続けられている。今年も世界祈祷日は網走では中止、コロナの終息を願うのみだ。二六日は灰の主日、しゅろの葉を燃やした灰が信徒の額にぬられて、いよいよ大斎の始まり。春を待ちこがれる日々であ

る。

▽今金インマヌエル教会

二月二日と二六日に礼拝を守りました。総会は午後二時頃より始まり、昨年度の報告と今年度の計画が話されました。皆さんと共に進めてゆきたいと思っております。二六日は、藤井先生ご夫妻と息子さんご家族総勢八名がインマヌエル教会に来てくださいました。久々に聞く子ども達の声やしぐさに皆笑顔になっていました。懐かしさほっこりとした時を過ごさせてもらい、このような子ども達そして大人達も共に安心して暮らせる、そんな環境をつくってゆけたら幸せだと思います。

▽室蘭聖マタイ教会

真冬日の続く中、松井司祭は礼拝の都度、大事を取って前泊をされ、大町司祭は遠路をそれぞれご来会いただき感謝と恐縮をしています。二二日は総会。信徒高齢化等の悩みは有るものの、来年度の歩みが主の与えてくださる道に喜びと感謝の一年となる事を望みました。二二日はエリサ

ベツ藤井美美子さんの逝去記念礼拝。藤井家でご用意くださった食事と共にし、美美子さんを偲びました。その後に大斎始日礼拝に与り大斎の意が深まりました。「ヨブ記を読む集い」の再開が待たれる今日この頃です。

▽北見聖ヤコブ教会

厳寒の中、五日に総会を開き、愛と希望を分かち合う。トイレの床下の凍結でバタバタではあったけれど。翌日、数日前から雪庇に押されても、上げて屋根の上に転がっていた煙突を、箱が上下する重機に

来ていただき撤去。この日に凍結も解消。一四日、牧師館トイレのドアを修理。職人技に司祭感動。二四日、司祭車に相手方の一〇〇%の過失で追突されたのですが、双方に怪我無く感謝。その夜司祭は代車でYMCAの委員会へ。二五日「水彩二人岡嘉彦・瑛子遺作展」へ。悲しみと感動が込み上げる。

▽新冠聖フランシス教会

北海道でも日高地方は比較的降雪の少ないところですが、教会は新冠町より一〇キ

ロ程奥地に入ります。礼拝日は雪が降らない事を願いつつ向かいます。車から降りると広い敷地内は除雪され、雑木は伐採されて見通し良く整備されています。教会の隣りにお住まいの山田彰さんのご奉仕でした。本当に感謝です。

二月最後の聖餐式では大斎節第一主日(灰の塗布)を行いました。内海司祭より額に一人ひとり十字を施され、心新たな気持ちで罪の赦しと平和にあずかる事ができますようにお祈り致しました。

▽深川聖三一教会

二月五日信徒総会。総会予定の一月二九日は豪雪のため延期でした。新年度活動と予算案可決される。一四日、保育園職員会議、チャプレンから献金の強要の恐れがあるので職員には直接献金袋を渡さないと話される。二四日、道北分区牧師会、主教様ご陪席。永谷司祭の道北分区での一年在任でのお別れで惜しまれる。主教様からの性的少数者LGBTに対する教会の対応状況についてご意見を伺う。

今年の深川は例年の二倍の

降雪量、重圧で引戸も動かぬほど、零下二六度の厳寒なり。

▽小樽聖公会

二月五日(日)、顕現節第五主日。聖餐式後、二〇二三年の堅信受領者総会を開催。すべての議案において承認を得る。コロナ禍、四年目。まだ制約の中、でも歩み出す。

一九日(日)未明。寒気が緩み、お隣りの空き家の大きく成長した雪庇が落下。その落下の重圧を受け、礼拝堂の壁の一部が歪み膨らむ。空き家所有者への連絡がつかずあわてる。しかし、何とか連絡を取り付け、一時しのぎであるが、部分的な除雪を行ってもらう。昨年に続く災難、教会員一同、頭をかかえる。

